

ラボニュース

平成22年度 第1号
平成22年 12月3日発行
発行: 公立学校共済組合
中国中央病院 臨床検査科

薬剤耐性菌について

薬剤耐性菌といえば、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）が有名ですが、最近、ニュースなどでも多剤耐性アシネトバクターやニューデリー・メタローβ-ラクタマーゼ1（NDM-1）産生菌など話題になりました。それについて、簡単に紹介したいと思います。

多剤耐性アシネトバクター

アシネトバクターは、緑膿菌と同様に自然環境や、住環境中の湿潤な場所に生息する細菌です。病原性は低く、健常者には無害な細菌です。

多剤耐性アシネトバクターとは、通常使用する抗菌薬が殆ど効かなくなっているアシネトバクターのことで、カルバペネム系・フルオロキノロン系・アミノグリコシド系の抗菌薬すべてにおいて耐性を示します。



NDM-1産生菌

NDM-1とは、メタローβ-ラクタマーゼ（MBL）の1つで、広域βラクタム剤を分解する酵素です。

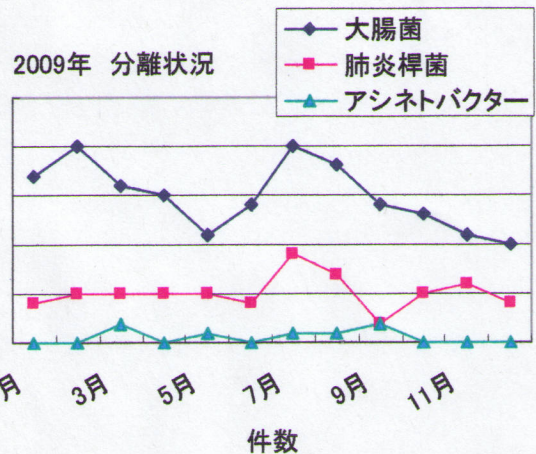
MBL産生菌は緑膿菌やアシネトバクターなどで見られていましたが、NDM-1型は、大腸菌や肺炎桿菌などの腸内細菌が産生します。

腸内細菌は日和見感染菌に比べて病原性が高く、腸管内に常在しているため、今後市中に広がる可能性が懸念されています。



当院での分離状況は？

当院でも、大腸菌・肺炎桿菌は毎月分離され、アシネトバクターも年間数件分離しています。そのほとんどは感受性結果は良好で、耐性菌ではありません。現在、多剤耐性アシネトバクター、NDM-1産生菌ともに、輸入例がほとんどですが、いつ、耐性菌が出現するか分からないため感染対策は必要です。



感染経路は？対策は？

多剤耐性アシネトバクター、NDM-1産生菌ともに、接触感染です。手洗いや、手袋の適切な使用など、標準予防策の徹底がもっとも重要になります。当院は、免疫力の低下した患者さまも多く、今回紹介した耐性菌のみでなく、さまざまな耐性菌を伝播させないように、標準予防策を徹底していきましょう！！